

未来の働き方

混乱下における新しい視点

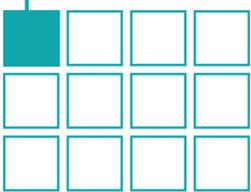
経済、社会、テクノロジーの混乱により、我々の生活と仕事の在り方は変ぼうを遂げている

回答者の25%以上が、今後5年で働き方に大きな変化が訪れると感じている



61% 「従業員はテクノロジーの改善を求めている」と回答

COVID-19で、デジタル変革の推進が加速している

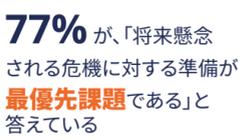


わずか 8% 「準備万全である」と感じる (COVID-19対策調査)

上位3項目

日本のテクノロジー産業は、下記項目に投資を進める

- 人工知能 (AI)
- ビデオ会議システム
- クラウド



77% が、「将来懸念される危機に対する準備が最優先課題である」と答えている

インテリジェントオートメーションの効果に再注目し、活用すべき時が来た

62% 「インテリジェントオートメーションが顧客満足度を向上させる」と感じている

58% 「インテリジェントオートメーションが職場のストレスを軽減させる」と感じている

37%

「インテリジェントオートメーションにより、今後2年間で1人の従業員につき週10時間以上の労働時間を削減できる」と感じている

余った時間を従業員はどう使うか?

- 1 インテリジェントコンピュータとの働き方を学ぶ
- 2 クリエイティブな活動が増える
- 3 分析とクリティカルシンキングの時間が増える

ITは、従業員の負担ではなく、力になる

69% 「働き方を改善するためにテクノロジーを使用する上でITは欠かせない要素である」と感じている

71% 「従業員が独自のテクノロジーソリューションの構築と実装ができるように、ITがプラットフォームとシステムを提供すべきである」と感じている

これが未来の働き方です

Pegasystemsのために、Savantaが2020年4月に実施した全世界3,158社対象の研究プロジェクトの一環として、192社の日本企業に対する調査から抽出されたデータです。

レポートを入手